

医科学から
読み解く
西洋画家の物語
～第七回～



アンリ・マティス『夫人の居間』
1921年、オランジュリー美術館
（事務局撮影）

病から生まれた アンリ・マティスの色彩

川崎市川崎区 谷本 哲也

腸腫瘍の手術後、車椅子生活となった巨匠が編み出した「切り絵」という革命。病から復活した男が最晩年に到達した、純粋な色彩の世界とは一（毎月一回連載）。

アンリ・マティス（1869―1954）は、20世紀の美術史においてピカソと並び称される巨匠である。代表作「ダンス」（1910）や、晩年の切り絵シリーズ「ジャズ」（1947）は、視覚芸術の新たな可能性を切り開いた。一方で、マティスの人生は若年期から晩年に至るまで、慢性的な腹部疾患、呼吸器疾患、不眠、そして心理的苦悩に彩られていた。幼少期から気管支炎・肺

炎を繰り返していた彼が、画家となるきっかけも病床にあった。法務事務所に勤めていた若きマティスは、激しい腹痛で入院し、療養中に隣のベッドの男から絵を描くことを勧められる。そのとき母が買ってくれた絵具箱に触れた瞬間、「これが私の人生だ」と確信したと後に語っている。

第一次世界大戦期には罪悪感・無力感に苦しみ、パニック様症状もあった。数人の精神科医の診察を受けたが、最終的には神経症的傾向は彼の本質の一部と説明された。1941年、マティスは腸の腫瘍の手術を受けた。腫瘍は良性の平滑筋腫だったが、手術は合併症を伴い、壊死性軟部組織感染症、敗血症、肺塞栓など、重篤な状態に陥った。医師は余命3年と告げた

が、マティスは「病から復活した男」としてその後13年を生き抜いた。この手術により車椅子生活となった彼は、筆を握る代わりに色紙を切つて線描で構成する「切り絵」という新たな表現手法を生み出す。呼吸器機能の脆弱さや慢性的な不眠症も、彼の創作に影を落とした。スペイン旅行中には、精神的な緊張と批評への失望から、全身を震わせるような神経発作を起こし、医師の指導で作業を中断することもあった。第二次世界大戦中には、娘マルグリットがレジスタンス活動でゲシュタポに捕らえられたことに衝撃を受け、数日間何も描けなくなつたという。

しかし驚くべきは、彼がこうした身体的・精神的苦痛を昇華し、より自由で大胆な表現へと転化していった点にある。マティスは語る。「私の作品で、春の軽やかな歓びのように、人を煩わせることなく楽しませたい」。晩年に手がけたヴァンスのロザリオ礼拝堂（1949―51）では、内装からステンドグラスに至るまで自ら設計し、「生涯の結実」と呼んだ。マティスの歩みは、病に打ちひしがれることなく、病を芸術の器として活かした希有な例である。彼の人生は、創造とはしばしば制限の中から生まれ、病と芸術は対立ではなく、互いに呼応しうることを教えてくれる。マティスの色彩は、痛み、裏側から差し込んだ、生命そのものの光だった。

「熊本地震」、「千葉豪雨」 救援募金にご協力を

この度の熊本地震および千葉豪雨で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

神奈川県保険医協会は、熊本地震および千葉豪雨により甚大な被害を被った該当協会に属する被災会員を救援するための募金を、下記の通り実施することにいたしました。この救援募金は当会がとりまとめ、その全額を被災協会と被災会員へ寄付することとしています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。※当該募金は寄付金控除ができませんが、経費扱いとなります。

一救援募金の協力方法一

受付期間 9月末まで（第一次）

募 金 額 一口3,000円（何口でも可能）

募金方法 郵便振込みまたは銀行振込み

※通信欄に「募金」とお書きください。募金先にご指定がある場合は、「熊本地震」もしくは「千葉豪雨」とお書きください。「募金」のみ記入の場合は当会が責任を持って配分させていただきます。

【郵便振込みの場合】

〈加入者名〉神奈川県保険医協会

〈口座番号〉00260 - 2 - 2220

◇振込用紙を使用し、通信欄に「募金」とご記入ください。

【銀行振込みの場合】

〈振込口座〉横浜銀行 横浜駅前支店

普通預金 0181890

カナガワケンホケンイキョウカイ

*いずれの場合も振込手数料のご負担をお願いします。

お問合せ：神奈川県保険医協会 ☎ 045 - 313 - 2111

私の履歴書 ～第114弾～



昭和57年卒業後総合病院
歯科勤務後、同61年父の跡
を継ぎ開業しました。
保険医協会には開業時友
人の勧めで入会、40年近い
と思います。しかし3年く
らい前までは、何もせず困
ったときに電話で教える請
う程度でした。

偶々横浜支部の観望会参
加後紆余曲折を経て洞澤支
部長の助手になり、形ばか
りの評議員で年2回参加し
その都度、賛成の挙手数回
行っています。

2カ月前よりスポーツジ
ム通いを知人の勧めで始め
ました。歯科の為前傾で患
しきことは皆無でした。

当初、マシントレーニン
グ少々でも体のあちこちが
ガタピシ、知人からスタジ
オプログラムも参加すべし
とのお達しで、ピラティス、
ヨガ、エアロビクスまで始
めました。身体硬いわ、手
くお願いいたします。

68歳近況

たいした履歴ではないので近況です。

横浜市中区 溝呂木 文行

足は全く付いてこないわ、
一人だけ違う種目を行って
いるようで恥ずかしいやら
周囲の方も自分のことで精
一杯、ご同類もおられるの
で図々しく出ています。

まだ各プログラム数回の
経験ですが、当初の終了後
のガタピシ感は薄れ、適度
の疲労感で参加当日はよく
寝られ中々具合よい為継続
していければと思っています。

共済セミナー 20年の経験生かし解説 ドクターのためのお金の知識

共済部は7月29日、共済セミナー「ドクターとして最低限知っておきたいお金の知識ー2026年ー」を協会会議室とWEB併用で開催。講師は東京海上日動あんしん生命保険㈱横浜支店、エグゼクティブ・ライフパートナーロイヤルメンバーの石原香介氏が務めた。今年1月にも開催したテーマであるが、94名もの参加があった。

当日は、協会独自制度の「所得補償保険」や「保険医年金」といった共済制度の案内にはじまり、講師からはこの20年にドクターと関わってきた経験を生かし、「医師」という職業に合わせたリアルなマネープランが提示され、生命保険、金融商品の活用法について解説があった。

ドクターの個別相談が順番待ちであることから「行列の出来る保険コンサルタント」との異名をもつ石原氏。協会会員への特典として設けた個別相談の機会にも複数の申し込みがあった。

活動報告

quick reports

会員の声 募集 「習い事の思い出」

神奈川県保険医協会新聞部では今年、保険医新聞11月5日号を11月3日の「文化の日」にちなみ、“文化号”としたいと考えています。

その“文化号”の企画として、「習い事の思い出」のエピソードを募集いたします。文字数は最大800文字まで、短くても構いません。FAXまたはメールにてお送りください。写真の掲載を希望する場合は、郵送または下記メールアドレスまでお送りください。

新聞紙面上で、思い出話に花を咲かせませんか?先生方の投稿をお待ちしております。

【設問】①昔していた習い事は何ですか？（複数可。今も続けていることでも結構です）
②具体的な思い出・エピソード

【締切】10月8日（木）【文字数】800文字以内（短くても構いません）

【投稿方法】FAX：045-313-2113、メール：kanahoi-shinbun@hoken-i.co.jp
郵送：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2
TSプラザビルディング2階

*ご不明点は新聞部まで（TEL 045-313-2111）